

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	541 青山ふれあいフェスタ開催事業	会計	01	一般会計
		款	06	農林業費
		項	01	農業費
		目	03	農業振興費
基本 施策	43 伊賀ブランドの価値を高め、売り出す	細目	287	農業振興経費
		細々目	52	青山ふれあいフェスタ開催事業
行革大綱の重点事項番号				
担当部課名	コード	750100		担当者氏名
	名称	青山支所振興課		
			若出 正裕	連絡先
				52 - 1114 (内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	農家、林家、農林業関係団体、商工業事業所・関係団体	※対象件数
成果(どうする)	農林産物をはじめ商工業関係事業所等のPR、製品等の販売の場の提供ができます。	
根拠法令・要綱等	伊賀市補助金等交付規則	
開始年度	平成 17 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H23 事業 内容	ふれあいフェスタin青山実行委員会へ補助 開催:平成23年10月22日 場所:青山ハーモニー・フォレスト 事前準備及び当日対応(雨天により規模縮小)	
社会情勢の 変化等	特になし	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体 (委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
			入場者数(スタッフ等関係者を除く)	人	目標 3,300 実績 0	目標 3,300 実績 1,500
出店ブース数	件	目標 45 実績 37(予定)	目標 45 実績 40	45	45	

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
				入場者数(スタッフ等関係者を除く)	PRがどれだけできたか計れます。	人	目標 3,300 実績 0
出店ブース数	関わった個人等を計ることが地域振興の寄与の目安になります。	件	目標 45 実績 37(予定)	目標 45 実績 40	45	45	

投入 コスト	H22 決算		H23 決算		H24 当初予算		H25 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
直接事業費計 (A)	758		887		1,287		1,287	
A の 財 源 内 訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	758		887		1,287		1,287	
事業投入人件費 (B)	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440
フルコスト (A)+(B)		2,198		2,327		2,727		2,727

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必12】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	【達1】当初設定した計画を 60%以上80%未満 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【達2】【予算の繰越がある場合、繰越の種別】 雨天により規模を縮小した。	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	青山ハーモニーフォレスト(パークゴルフ等施設)の存在をポスターの掲示、パンフレットの配布ホームページの開設等でPRする。
昨年度の 取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 ポスターを作製し、市の各施設に配布し啓発を行った。HPは、指定管理者に開設の指導を行い、開設し啓発している。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	牧野 頼悌
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 青山地域の農業・林業・商業・住民自治協等19の各種団体が協働して開催されるイベントで、今年度第8回となる。それぞれの団体が、それぞれの工夫をこらした地域の特産・特技を発表し地域産業発展に寄与している。子どもによるステージ発表では、練習の成果を披露するなど事業の効果が大きいことから、今後も継続する。
現時点における 課題、その他	毎年、10月中旬に開催しているが、2年連続雨で中止及び規模縮小での開催となっている。前年度は、天候回復したことから、規模縮小開催となったが、出展者の意欲が高く縮小にもかかわらず、多くの来場者で賑わいました。雨天の対策等の検討が必要かと思われる。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、 何を、どうする)	実行委員会において、会場等雨天対応を含め対応する。

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	542 収穫まつり開催事業	会計	01	一般会計
		款	06	農林業費
		項	01	農業費
		目	03	農業振興費
基本 施策	43 伊賀ブランドの価値を高め、売り出す	細目	287	農業振興経費
		細々目	53	収穫まつり開催事業
行革大綱の重点事項番号		2		
担当部課名	コード	700100		担当者氏名
	名称	大山田支所振興課		
		竹岡 章裕	連絡先	47 - 1157 (内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	大山田支所管内の市民	※対象件数
成果(どうする)	地域産業の発展と住民による地域づくり、都市住民との交流が図れる。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 2 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H23 事業 内容	事業内容:まつりの企画・運営・準備・片付け (H23年度実績) 委託先:大山田収穫まつり実行委員会 会場設営委託料:1,951,000円 当日は朝から雨の降りそうな曇り空で、昼からは雨も降り出したため来客数が少なかった。	
社会情勢の 変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体 (委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
出店団体	団体	目標	47	47	47	47
		実績	0	39		
出店ブース数	箇所	目標	50	50	50	50
		実績	0	42		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
来客数	人	まつりの来客数により、盛況ぶりを判断する。	目標	9,000	9,000	9,000	9,000
			実績	0	2,500		
			目標				
			実績				

投入コスト	H22 決算		H23 決算		H24 当初予算		H25 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計 (A)	936	1,951	1,951	1,951				
Aの財源内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	936	1,951	1,951	1,951				
事業投入人件費 (B)	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	
フルコスト (A)+(B)	2,376	3,391	3,391	3,391				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必12】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	地域の団体や組織を中心に模擬店を出店していただき、団体の活動をPRする場を提供することにより、地域産業の発展と住民による地域づくりや地域間交流を進められ、地域活性化もしくは農村活性化の推進につなげる。
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	【達1】当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	出店テントの申し込み単位を半テントとし、全体のテント数を減らし会場設営予算の削減を行っている。 出店は地元団体が構成されており、ほとんど赤字覚悟のボランティアであり、これ以上の経費削減はできない。

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	平成23年度中に収穫まつり事務局の移行について実行委員会と協議を行う。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 大山田支所振興課内にあった収穫まつりの事務局を、平成24年度から実行委員会に移行させる。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	西口 敏之
事業の方向性	【方向性】 内容変更 【理由】 今後、より多くの市民の参加が得られるよう創意工夫していくことが必要。
現時点における課題、その他	今後、収穫まつりの運営について、実行委員会のあり方の検討が必要である。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成24年度中に収穫まつりの運営について実行委員会と協議を行う。

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	551 伊賀米等生産振興対策事業	会計	01	一般会計
		款	06	農林業費
		項	01	農業費
		目	03	農業振興費
基本施策	43 伊賀ブランドの価値を高め、売り出す	細目	293	伊賀米等生産振興対策事業
		細々目	51	伊賀米生産振興経費
行革大綱の重点事項番号		6.7		
担当部課	コード	160100		担当者氏名
	名称	産業振興部農林振興課		
		連絡先	43 - 2302 (内線) 335	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	伊賀米生産農家、関係事業者及び地域の消費者	※対象件数
成果(どうする)	伊賀市の主力農産物である伊賀米の生産基盤が保持できる。伊賀米の有利販売が行われる。安全安心な伊賀米が安定供給される。	
根拠法令・要綱等	団体規約	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H23 事業内容	伊賀米振興協議会並びに三重県米麦協会の活動経費を負担。当該支援団体の活動を通して、伊賀地域における稲作栽培の技術向上および米の品質向上を図り、同時に経済情勢、需給動向に対応した計画的生産販売を行うことで、安定した生産販売体制を構築する。また、「伊賀米」ブランドの普及、販売拡大に努める。	
社会情勢の変化等	人口減少や高齢化の進行で、国全体の米消費量が年々減少している。また、低価格米を好む消費者が増えて、伊賀米の価格も下落してきている。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体(委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
振興協議会の開催	目標	回	10	10	10	10
	実績		12	10		
研修会等の実施	目標	回	6	6	6	6
	実績		6	6		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
生産調整目標の達成率		100%を超える達成率で需給調整し、三重県他地域の米よりも単価を有利にする	%	目標	100.0	目標	100.0
				実績	109.0	実績	108.0
伊賀米の集荷(販売)量		伊賀米のJA集荷量をもって販売指標とする。	袋	目標	330,000	目標	330,000
				実績	330,260	実績	319,895

投入コスト	直接事業費計(A)	H22 決算	H23 決算	H24 当初予算	H25 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	2,629	4,129	4,629	4,629
	事業投入人件費(B)	0.1人 720	0.1人 720	0.1人 720	0.1人 720
	フルコスト(A)+(B)	3,349	4,849	5,349	5,349

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業	○
	【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。	
	【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】	
	【効3】受益者負担を求めることができる事業である。	
	【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	本年度、伊賀米オリジナルの東京キャンペーンを実施する。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる
	【詳細】 東京丸之内の著名飲食店などで三菱地所などと連携して伊賀米キャンペーンを実施した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	服部 智秀
事業の方向性	【方向性】 現状維持
	【理由】 協議会の運営について伊賀市の意見や要望が多く反映されるよう努める。
現時点における課題、その他	首都圏での販促活動が手薄である。コシヒカリ以外の伊賀米ブランドを確立すること。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	本年度も伊賀米オリジナルの東京キャンペーンを実施する。

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	572 畜産振興事務経費	会計	01	一般会計
		款	06	農林業費
		項	01	農業費
		目	07	畜産業費
基本 施策	43 伊賀ブランドの価値を高め、売り出す	細目	317	畜産振興事務経費
		細々目	51	畜産振興事務経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課	コード	160100		担当者
	名称	産業振興部農林振興課		氏名
			小林 康志	連絡先
			43 - 2302	(内線) 335

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	畜産農家、銘柄牛「伊賀牛」	※対象件数
成果(どうする)	口蹄疫病など伝染病の予防 畜産農家の経営が安定化、銘柄牛の優良化	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H23 事業 内容	家畜保健衛生対策:防疫推進のため予防接種の薬剤費に対し、牛0.15%、豚0.05%助成 銘柄牛「伊賀牛」販売促進:伊賀産肉牛生産振興協議会負担金等の支出 優良素牛を伊賀地域へ導入しやすいように1頭あたり4,500円を助成した。	
社会情勢の 変化等	各種助成事業を平成22年度から本庁予算に統合した。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

運営主体	
1 (委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
優良素牛導入頭数(補助対象のみ)		頭	目標	360	目標	360
			実績	463	実績	470
保健衛生対策実施農家(団体)		戸	目標	5	目標	4
			実績	4	実績	5

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
優良素牛導入頭数		導入数÷販売数なので導入頭数は畜産振興の指標となる	頭	目標	360	目標	360
				実績	463	実績	470
保健衛生対策実施農家(団体)数		主要な農家が衛生対策を実施することで食の安全安心指標となる	戸	目標	5	目標	4
				実績	4	実績	5

投入コスト	H22 決算		H23 決算		H24 当初予算		H25 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	6,252	3,621	4,447	4,447				
Aの財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
一般財源	6,252	3,621	4,447	4,447				
事業投入人件費(B)	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	
フルコスト(A)+(B)	7,692	5,061	5,887	5,887				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	○
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	畜産関係団体が市内で統一化されたことに伴い、情報交換が容易になった。今後関係機関との連携を徹底する。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 伊賀牛が三重ブランドに認定された。 鳥インフルエンザや口蹄疫病の発生が無く事業効果が確認できている。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	服部 智秀
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 家畜保健衛生に対しての取組は今後も必要である。地域間競争で勝ち残るためには、銘柄牛の育成は不可欠であり、今後も事業を維持する。
現時点における課題、その他	銘柄牛「伊賀牛」のブランド推進、家畜衛生意識の向上、維持
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	伊賀牛が三重ブランドに認定されたことを広く周知するイベント等を実施する。

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	601-1 地場産業振興事業(施設の指定管理)	会計	01	一般会計
		款	07	商工費
		項	01	商工費
		目	03	観光費
基本 施策	43 伊賀ブランドの価値を高め、売り出す	細目	336	観光振興経費
		細々目	51	地場産業振興事業
行革大綱の重点事項番号				
担当部課名	コード	160500		担当者氏名
	名称	産業振興部商工労働観光課		
		連絡先	43 - 2309 (内線)	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	観光客、伊賀市の特産品生産者、物産振興団体			※対象件数
成果(どうする)	常設展示や体験により伊賀焼に対する理解を深めることができる。			
根拠法令・要綱等				
開始年度	平成	年度	関連事業	
終了年度	平成	年度		
H23 事業 内容	伊賀焼振興協同組合に伊賀焼伝統産業会館及び伊賀・信楽古陶館を指定管理として委託した。			
社会情勢の 変化等	新たな指定管理にあたって、類似施設である伊賀・信楽古陶館との一括管理により、統一的な管理運営による効率化を図った。季節ごとの企画展の実施などにより集客を図ったが、経済不況による購買意欲の低下や震災による自粛ムードの中、入館者は減少した。			

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

運営主体	指定管理
1 (委託先)	[伊賀焼振興協同組合]
2 配置人員	8人
3 年間運営費	10,006千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
	年間開館日数(伊賀・信楽古陶館)	日数	目標	361	目標	362
			実績	361	実績	362
	年間開館日数(伊賀焼伝統産業会館)	日数	目標	307	目標	308
			実績	307	実績	308

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
	伝統産業会館及び伊賀・信楽古陶館入館者数	伊賀焼を多くの方に理解していただく施設であり、その入館者数を指標とした。	人	目標	6,437	目標	7,334
				実績	7,334	実績	6,829
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	直接事業費計(A)	H22 決算	H23 決算	H24 当初予算	H25 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	3,458	7,250	7,250	7,250
	事業投入人件費(B)	0.7人 5,040	0.7人 5,040	0.7人 5,040	0.7人 5,040
	フルコスト(A)+(B)	8,498	12,290	12,290	12,290

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)	
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		
	【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業		
	【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
	【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
	【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
	【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
	【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
	【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業	○	
	【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
	【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
	【必12】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 ※ 事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	○	地場産業は、雇用の創出や地域の産業経済への貢献度が高く、観光資源としても新たな観光ニーズへの対応が可能であるため、地域活性化の一助となる。
	【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	○	
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○	
	【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。	○	
	【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。		
達成度	【達1】当初設定した計画を <input type="text" value="100%"/> 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】		
	【達2】予算の繰越の有無 <input type="text" value="無"/> 予算の繰越がある場合、繰越の種別 <input type="text"/>		
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		
	【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】		
	【効3】受益者負担を求めることができる事業である。		
	【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。		
	【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	今年度中に観光客の動向にあった施設のあり方等の検討を行う。
昨年度の取組状況	【状況】 <input type="text" value="計画のとおり進んでいる"/>
	【詳細】 類似施設である伊賀焼伝統産業会館と伊賀・信楽古陶館とを一括管理することにより、統一的な管理運営による効率化を図った。高齢者や身体の不自由な方のニーズに対応し、トイレの洋式化を行った。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	城 政彦
事業の方向性	【方向性】 <input type="text" value="現状維持"/>
	【理由】 今後さらなる効率的な施設管理を行うため、委託先および業務内容、また、施設のあり方について検証を行う。
現時点における課題、その他	入館者減への対応及び施設の老朽化に伴う維持管理費コストの増。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	今年度において入館者数を増加させるため、体験メニューの充実を検討する。

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	601-2 地場産業振興事業(地場産業振興)	会計	01	一般会計
		款	07	商工費
		項	01	商工費
		目	03	観光費
基本施策	43 伊賀ブランドの価値を高め、売り出す	細目	336	観光振興経費
		細々目	51	地場産業振興事業
行革大綱の重点事項番号				
担当部課名	コード	160500		担当者氏名
	名称	産業振興部商工労働観光課		
		連絡先	川部 千佳 43 - 2309 (内線)	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	観光客、伊賀市の特産品生産者、物産振興団体	※対象件数
成果(どうする)	伊賀市の特産品生産者の新商品開発意欲や物産振興団体の販路開拓意欲を高め、売上の向上による経営改善、製品のブランド化が進む。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H23 事業内容	伊賀市物産協会へ地場産業振興事業を委託した。 ※地場産まつり、観光キャンペーンの開催 伊賀焼振興協同組合に伝統工芸品産業振興補助金を助成した。 ※新製品の開発研修・専門技術研修・専門技法研修 ※児童等への体験学習	
	伊賀市物産協会へ地場産業振興事業を委託した。 ※地場産まつり、観光キャンペーンの開催 伊賀焼振興協同組合に伝統工芸品産業振興補助金を助成した。 ※新製品の開発研修・専門技術研修・専門技法研修 ※児童等への体験学習	
社会情勢の変化等	上野天神祭にあわせ地場産まつりを開催 各種観光キャンペーンに参加し、伊賀ブランドの存在を継続的にPRしている。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体(委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
物産展への出展回数	回	目標	5	5	5	5
		実績	8	8		
		目標				
		実績				

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
物産展催事の売上高	千円	物産展における特産品の売上高の前年度額を目標値に設定し、当該年度を評価	目標	4,000	4,000	1,430	1,430
			実績	4,169	1,430		
			目標				
			実績				

投入コスト	直接事業費計(A)	H22 決算	H23 決算	H24 当初予算	H25 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの財源内訳	国庫支出金	1,488	1,490	1,490	1,490
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	1,488	1,490	1,490	1,490
事業投入人件費(B)		0.7人 5,040	0.7人 5,040	0.7人 5,040	0.7人 5,040
フルコスト(A)+(B)		6,528	6,530	6,530	6,530

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業	○
	【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	【必12】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 ※ 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	○
	【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】 地域の伝統産業の衰退並びに後継者育成が難しくなる。	○
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。	○
	【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】	
	【効3】受益者負担を求めることができる事業である。	
	【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。	
	【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

地場産業は、雇用の創出や地域の産業経済への貢献度が高く、観光資源としても新たな観光ニーズへの対応が可能であるため、地域活性化の一助となる。

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	地場産業そのものを観光資源として活用し、「学ぶ・体験する・ふれあう」などを求める新たな観光ニーズに対応させるため、今年度において観光商品メニューの充実を進める。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる
	【詳細】 観光協会において伊賀焼体験・交流事業を実施し、着地型観光商品メニューの検討を行った。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	城 政彦
事業の方向性	【方向性】 現状維持
	【理由】 地域経済が疲弊している現状にあつては、地域独特の風土や歴史、文化、生活などと密接に関連している地場産業を再評価し、販売促進や地域ブランドの向上を目指すための支援が必要である。
現時点における課題、その他	消費者ニーズの多様化、輸入品増加による製品単価の下落など地場産業を取り巻く環境は一段と厳しくなっており、それに伴い、特産品生産者の新商品開発や物産振興団体の販路拡大に対する意欲が低下してきている。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	地場産業そのものを観光資源として活用し、「学ぶ・体験する・ふれあう」などを求める新たな観光ニーズに対応させるため、今年度において観光商品メニューの充実を進める。